

プラグマティズムとアメリカン・ドリームは
米国の資本主義精神とどのように関連し、強化し合ってきたのか

法学部政治学科 4 年
谷村 紘美

- I. 序論
- II. プラグマティズムの誕生の背景
 - (1) プラグマティズムとは
 - (2) プラグマティズム誕生のきっかけ
 - (3) プラグマティズムとプロテスタンティズム
- III. アメリカン・ドリームという概念誕生の背景
 - (1) アメリカン・ドリームとは
 - (2) 「平等」理念を持つ国
 - (3) アメリカンドリームと宗教
- IV. 2つの概念の共通点
 - (1) プロテスタンティズム
 - (2) 教育
 - (3) 米国におけるマイノリティの人々との関わり
- V. 結論と今後の米国経済における2つの概念の影響
 - (1) まとめ
 - (2) 今後の米国社会の予測
- VI. 参考文献

I. 序論

本研究では、米国建国からわずか約 200 年で資本主義社会の覇権国家へと成長できた背景にある、米国人の思想や精神の成り立ちを探究する。それらを探る上で今回は「アメリカン・ドリーム」と「プラグマティズム」という二つの概念に注目する。

両者は、米国経済が急成長を遂げる直前の時期に誕生し、未だ頻繁に耳にする言葉である。筆者自身も前者の「勤勉さと愚直な努力によって誰でも成功できる」という希望に満ちた意味合いに魅了され、高校時に米国留学を決意した。しかし、学びを深める中で、資本主義の枠組みの中で多くの人々が搾取され、不平等な状況に置かれていた米国の歴史的事実にも直面した。このような現実と理想のギャップに対する疑問

が、本研究の出発点となっている。その後、プラグマティズムという哲学に触れたことで、米国の資本主義社会において成功や成果を重視する考え方が、単なる経済的価値観ではなく、哲学的背景に支えられていることに気づいた。プラグマティズムの持つ「真理とはその有用性に基づいて判断されるべきもの」¹ という思想は資本主義の成果主義的価値観を理論的に正当化する役割を果たしてきたのではと仮説を立てた。これらの概念は、アメリカの歴史や社会、文学、さらには現代の価値観において大きな影響を及ぼしてきたが、それぞれを独立して論じた研究が多く、両者を関連付けて考察した研究は少ない。そこで、一見相反する言葉のように思える「アメリカン・ドリーム」と「プラグマティズム」という二つの概念を分析し、米国内で支持されている原因を明確化することを試みる。

アメリカ人哲学者であるウィリアム・ジェームズ、ジョン・デューイ、チャールズ・パースによって確立されたプラグマティズムは、実用主義や成果主義に基づく哲学として、多くの研究がなされてきた。近年では、プラグマティズムが現代の社会問題や環境問題の解決にどのように寄与し得るかといった応用的研究も進展している。²

一方で、「アメリカン・ドリーム」についての研究は、主に文学や社会学の分野で発展してきた。ジェームズ・トラスロー・アダムズが1931年に提唱したこの概念は、F.スコット・フィッツジェラルドの『華麗なるギャツビー』³ や、ジョン・スタインベックの『怒りの葡萄』⁴ といった文学作品において、しばしばその理想と現実のギャップがテーマとして描かれている。社会学的には、アメリカン・ドリームが社会的流動性や経済格差とどのように結び付いているのかを論じた研究が多い。⁵ また、近年では、この概念がポストモダン的な批判を受け、アメリカ社会の現実を反映した「幻想」として再解釈される動きも見られる。⁶

上記のように今日でも多くの研究者がテーマとして活用している2つの概念だが、両者を結び付けて論じた研究は限定的である。プラグマティズムの実践性や適応力が、アメリカン・ドリームにおける「成功」や「自己実現」の理念をどのように支えてきたのかを考察した先行研究は、体系的に整理されていない。本研究では、この研

¹ “プラグマティズム”，日本大百科全書(ニッポニカ), JapanKnowledge, <https://japanknowledge-com.kras1.lib.keio.ac.jp>, 閲覧日：2025/01/23

² 大石敏広, "環境プラグマティズムにおける< 政策の合意> の概念について ロールズの< 重なりあう合意> を手掛かりに," 倫理学研究 47 (2017): 123. 2017

³ 山本義浩, "アメリカン・ドリームの光と闇 (1) 『グレート・ギャツビー』 の夜を巡る欲望," 徳島文理大学文学論叢, p.13-26. 2016

⁴ 加藤好文, "カリフォルニアの「ぶどう」を食べるのは誰か: 『怒りのぶどう』 とアメリカの道文化," 愛媛大学法文学部論集, P.16. 2018

⁵ Chomsky Noam, 寺島隆吉, "アメリカンドリームはどこに?", 『アメリカンドリームの終わり: あるいは、富と権力を集中させる10の原理』, ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2017. p.1-4

⁶ 脇本, "アメリカのイブとしてのキャリー・ミーバーの探求: アメリカンドリームの幻想," 神戸常盤短期大学紀要, p.1-12. 2008

究ギャップに着目し、両概念がどのように相互作用してきたかを具体的に分析することで、この問いに対する答えを論証していく。おわりに、この結果を用い、現代の米国における自国優先主義の台頭や経済的格差の拡大といった課題にも示唆を与えた。

II. プラグマティズムの誕生の背景

(1) プラグマティズムとは

プラグマティズムは、米国で生み出された最も影響力のある哲学の一つである。プラグマティズムの創始者と呼ばれるチャールズ・サンダース・パースの研究を行っている米哲学者のドヴァール・コーネリスによれば、本思想の歴史は1870年代にマサチューセッツ州ケンブリッジで活動していた若手知識人たちによる私的サークル「メタフィジカル・クラブ」から始まる。クラブには、パースはもちろんのこと、ウィリアム・ジェイムズといった思想家が参加しており、彼らの対話と議論を通じて基本的な枠組みが形作られた。⁷

プラグマティズムの中心的な特徴は、「真理のダイナミズム」を重視する点にある。欧州で発展してきた従来の哲学においては、普遍的かつ絶対的な真理の存在が追求されてきた。しかし、プラグマティズムはこの考え方を否定し、真理とは固定的なものではなく、時間や状況に応じて変化するものだとする。特に、パースは「真理とはある命題が予測する実践上の帰結が、実際に経験として現れる場合にのみ成立する」と主張し、この立場を「実践主義」として体系化した。シェリル・ミサックの『プラグマティズムの歩き方』によると、ジェイムズはパースの上記思想を発展させ、「真理は経験によって絶えず検証され、実用的価値に基づいて判断される」と述べた。彼は、真理を「生命の役に立つもの」と定義し、個々の信念やアイデアがどのように人間の行動や意思決定に寄与するかを重視した。⁸ この思想は、特に米国の経済的成功や実際の成果こそが「真理」を証明するものとして受け入れられやすい風土を生み出したといえる。

このように、プラグマティズムは絶対的な真理の探究を放棄し、実際の経験や結果に基づいて真理を判断する哲学であり、かつ、単なる観念論ではなく現実社会の問題解決や意思決定のための哲学として機能した結果、その柔軟性と実践性が米国社会の

⁷ De Waal Cornelis、大沢秀介、『パースの哲学について本当のことを知りたい人のために』、東京：勁草書房、2017年p.165

⁸ Misak C. J. (Cheryl J.), 加藤隆文、『プラグマティズムの歩き方 上巻: 21世紀のためのアメリカ哲学案内 (現代プラグマティズム叢書 第1巻)』、東京：勁草書房、2019年、p.3-9

思想的基盤の一部となってきた。このような新たな視点を持つ哲学が19世紀に誕生した大きな要因である「科学的進化」と「南北戦争」という二つの歴史との関係性を論じていく。

(2) プラグマティズム誕生のきっかけ

プラグマティズムという思想が誕生した要因の一つ目に科学の進化と真理の相対化があげられる。1859年に発行されたチャールズ・ダーウィンの『種の起源』は、西洋の伝統的な宗教的世界観に大きな挑戦を突きつけた。キリスト教を含む多くの宗教の教えでは、「人間は神が創造した完全な存在」であるとされていたが、ダーウィンの進化論は生物の多様性を「自然選択」という科学的プロセスで説明し、人間の起源を神の意志から切り離したのである。アメリカ思想史、文化史を研究しているジェニファー・ラトナー＝ローゼンハーゲン『アメリカを作った思想——五〇〇年の歴史』にて、この科学的発見は「真理とは何か」という哲学における根本的な問いを再燃させたと述べている。⁹

上記『種の起源』が発行された後、米国の歴史上忘れてはならない重要な歴史の一つである南北戦争が勃発した。この内戦は、奴隷制の存続を巡る南部と北部の激しいイデオロギー対立が引き金となり、約60万人もの犠牲者を出した。両陣営はそれぞれ自らの「正義」を絶対的なものと信じ、妥協の余地を持たないまま衝突し、大規模な惨劇を招いた。政治哲学を専門に研究する宇野重規は『近代の変容』にて、プラグマティズムは上記の結果を導いた南北戦争がきっかけとなり生まれたと断言している。¹⁰ この悲劇は、絶対的な真理や正義を掲げた対立の危険性を示す反面教師となった。特に、戦争を経験した世代の知識人の間で「唯一の正義」を追求する伝統的な西洋哲学への批判が高まり、多様な価値観の共存を認める必要性が強く意識されるようになったのである。

これらの科学のおよび社会的背景が交差する中で、メタフィジカル・クラブを中心に、「科学と宗教の統一をどう考えるべきか」という議論が巻き起こった。その中でプラグマティズムは体系化されていったのである。科学の進化論が示す知識の可変性と、南北戦争の悲劇が教えた絶対的正義の危険性が合流し、「真理は固定的ではなく、実践的な結果によって検証される」という哲学的立場が確立されたのである。

プラグマティズムが「多様な価値観の共存を認める」という多元主義を重視している一方で、その理念には限界や疑問も存在する。特に、宗教的多元主義の観点からは、「異なる宗教同士が本当に互いの真理を尊重し合うことができるのか」という根

⁹ Ratner-Rosenhagen Jennifer, 入江哲朗, “始祖的権威をめぐる諸抗争”, 『アメリカを作った思想——五〇〇年の歴史』, ちくま学芸文庫, 2021, p.143-163

¹⁰ 宇野重規, “プラグマティズム——習慣・経験・民主主義”, 『近代の変容』, 岩波書店, 2014, p.117

本的な問いが生じる。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教などの一神教は、それぞれ独自の絶対的真理を前提としており、信仰の中心に「唯一の神」が存在する。そのため、多元主義の立場を取りつつも、異なる宗教の教義同士が対立しない形で共存することは理論的に難しい側面がある。これらの問いに対するより深い理解を得るためには、プラグマティズムの成立過程や思想的背景をさらに掘り下げる必要がある。次節では、そうした背景をより具体的に探求していく。

(3) プラグマティズムとプロテスタンティズム

プラグマティズム誕生の起源であるメタフィジカル・クラブに所属していた多くの知識人はピューリタン出身であった。ピューリタンとは、16世紀から17世紀のイギリスでカトリック教会およびイギリス国教会の権威から独立し、清純な生活を理想とした清教徒たちを指す。山室吉孝の『プラグマティズムとピューリタニズムのエートス』によると彼らはカルヴァン主義の教義に基づき、「神の選民」としての厳格な倫理観を持ち、労働や禁欲的生活を美德とした。特に『聖書』中心の信仰に基づき、「神の栄光のために生きること」を理想とし、個人の努力や成果を重視する傾向があった。¹¹ このピューリタンの信仰姿勢は、マックス・ウェーバーが『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で述べた「エートス（精神的態度）」と深く関連している。ウェーバーは、プロテスタンティズムが「労働倫理」や「禁欲的資本主義」の精神を生み出し、近代資本主義の発展を促したと論じている。¹² この点はプラグマティズムの成果を重視する姿勢と共通している。そこで、より具体的にプラグマティズム的思想を深ぼる中でプロテスタンティズムとの共通点を明確化する。

パースやジェイムズといったプラグマティズムの創始者たちは、宗教的信念を単なる信仰の問題としてではなく、人間の行動様式や価値観の形成に深く関与する要素として捉えた。¹³ 特に、パースはプラグマティズムの手法を「キリスト教の福音」と結びつけ、信仰の実践的側面を重視する考え方を提示している。コーネル・ウェストの分析によれば、パースはプラグマティズムを「人間の歴史における個人ではなく、集団的進化を強調するエマソンの楽天主義」と結びつけようとしたとされる。¹⁴ ここで言う「楽天主義」とは、米国的な進歩信仰、すなわち「努力と実績によって人間社会は前進しうる」

¹¹ 山室吉孝, “プラグマティズムとピューリタニズムのエートス”, 国際基督教大学学報, 1985, p.71

¹² Weber Max, “中山元訳, “世俗内的な禁欲の宗教的な基礎”, 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』, 日経 BP 社, 2010, p.233-246

¹³ 森本あんり, “反知性主義を生む平等の概念”, 『反知性主義: アメリカが生んだ「熱病」の正体』, 新潮社, 2015, p.117

¹⁴ West Cornel, 村山淳彦, “アメリカのプラグマティズムの歴史的誕生”, 『哲学を回避するアメリカ知識人: プラグマティズムの系譜』, ポイエシス叢書, 2014, p.112

という考え方であり、これはピューリタンの倫理観と重なる部分が多い。ジェームズにおいても、宗教的信念の「実用的価値」が強調される。彼は『宗教的経験の諸相』の中で、宗教的信念が個人の精神的安定や社会的行動にどのように影響を与えるかを分析し、信念がもたらす結果こそが真理を証明すると論じた。¹⁵ この考え方は、「信仰の内容よりも、信仰が人間の行動や生活に与える影響が重要である」というプラグマティズムの特徴を表している。上記の点から、プラグマティズムもピューリタンのエートスを継承しており、成果を重視する価値観や、行為の結果に基づいて真理を評価する姿勢が共通して見られる。

プラグマティズムは、宗教的信念を個人の精神的安定や社会的行動の結果として捉え、多様な価値観を認める多元主義の立場を強調している。しかし、実際に異なる宗教観が共存することの難しさは依然として残っている。たとえば、ピューリタンのプロテスタント信仰が強調する「成果主義」は、ユダヤ教の律法中心主義などの他の宗教的価値観と必ずしも一致しない。このように、プラグマティズムと宗教は密接に結びついているものの、異なる信念体系の共存という点では、依然として多くの矛盾を抱えていると言える。

III. アメリカン・ドリームという概念誕生の背景

(1) アメリカン・ドリームとは

「アメリカン・ドリーム」は、現代では「米国では努力次第で誰でも成功できる」という信念として広く知られている。しかし、この言葉が普及し始めた 1930 年代当初は、単なる経済的成功や物質的豊かさの獲得だけではなく、平等な機会と人間的成長の達成を含む、より包括的で理想的な概念であった。本節では、アメリカン・ドリームの起源と理念、そして現実との乖離について掘り下げる。

アメリカン・ドリームという言葉が初めて明確に定義されたのは、1931 年にジェームズ・トラスロー・アダムズが著した *The Epic of America* である。彼はアメリカン・ドリームを次のように説明している。

アメリカンドリームとは、単に物質的成功や富の追求にとどまらず、すべての人が生まれながらの社会的階級や状況にかかわらず、自己の能力と努力によってより良い生活を築く機会を持つという信念である。¹⁶

この説明から、アメリカン・ドリーの根幹には「平等な機会の提供」と「人間的成長

¹⁵ James, William, 梶田啓三郎, “哲学”. 『宗教的経験の諸相 下』. 東京, 岩波書店, 1969, p.292-298

¹⁶ Adams, James Truslow. “America Secedes from the Old World”. *The Epic of America*. Taylor and Francis. 2017, p.135, 198

と幸福の追求」という 2 つの要素が反映されていることがわかる。そして、この 2 点は米独立の歴史とも密接に結びついている。1776 年、アメリカ独立宣言でトマス・ジェファソンは「すべての人は平等に作られている」と明言し、当時の植民地人がイギリス本国人と不平等な立場に置かれていた状況に抗議した。森本あんりの『反知性主義』によると、ジェファソンの言葉は、「平等」を国家の設立理念の中心に据え、特権階級に対する反発から独立へと向かう原動力となったと述べられている。同様の平等理念は、日本の福沢諭吉の「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず」の思想とも通じる部分がある。¹⁷ つまり、米国の建国理念は、「生まれながらの立場で人を区別すべきではない」という啓蒙思想に基づいていたのである。

しかし、歴史を振り返ると、アメリカン・ドリームの理念と現実との間には大きな乖離が存在しているのは明白である。特に、人種差別や経済格差は、建国以来の米国社会に深く根付いており、「すべての人が平等である」という理念の実現は困難であった。例えば、南北戦争以前の奴隷制度や、その後のジム・クロウ法時代に見られる法的な人種差別、20 世紀の隔離政策や分離教育など、特定の人種や社会的集団が制度的に不利な立場に置かれてきた歴史がある。経済格差の面でも政治哲学者のノーム・チョムスキーの『アメリカンドリームの終わり あるいは、富と権力を集中させる 10 の原理』にて述べられているように、1995 年の共和党革命など経済的成功の概念が「富の集中」と結びつき、一部の富裕層だけがアメリカン・ドリームを体現しているという批判も存在している。¹⁸

それにもかかわらず、今日でも多くの米国人が「アメリカン・ドリームは生きている」と信じ続けているのはなぜだろうか。2024 年に行われたピュー研究所の調査によれば、53%の米国人が「アメリカン・ドリームは依然として実現可能である」と考えており、特にアフリカ系米国人の間では白人の 2 倍もの人々がこの理念を信じているという結果が出ている。¹⁹ この背景には、アメリカン・ドリームが単なる「現実の反映」ではなく、「理想としての目標」であるという側面が関係している。すなわち、「平等」という理念は、米国社会において達成された現実ではなく、依然として「掲げるべき目標」であり続けているのだ。特に公民権運動のように、歴史的な差別や抑圧を乗り越えるための原動力として、この理念は今なお社会的変革の旗印となっている。²⁰ このように、アメリカン・ドリームは単なる「成功神話」ではなく、米国社会の理想と現実の間に存在

¹⁷ 森本あんり。“忠誠の寛容論”。『不寛容論：アメリカが生んだ「共存」の哲学』。新潮社。2020。p97

¹⁸ Chomsky Noam, 寺島隆吉。“アメリカンドリームはどこに？”。『アメリカンドリームの終わり：あるいは、富と権力を集中させる 10 の原理』。ディスカヴァー・トゥエンティワン。2017。p.1-4

¹⁹ Gabriel Borelli. “Americans are split over the state of the American dream”. Pew Research Center. July 2, 2024, <https://www.pewresearch.org/short-reads/2024/07/02/americans-are-split-over-the-state-of-the-american-dream/>, (参照 2025-01-11)

²⁰ 宇野重規。“プラグマティズムー習慣・経験・民主主義”『近代の変容』、東京：岩波書店、2014 年、p.180

する緊張関係を象徴する概念であり続けているのである。しかし、250 年近くある米国史の中で不平等な歴史が続く中で、今もなお「皆平等である」という信念を信じ続けられるのだろうか。

（2）「平等」理念を持つ国アメリカ

「平等」という理念が米国に広く定着したのは、前節で触れたようにトマス・ジェファソンが起草した 1776 年の独立宣言が契機である。彼の言葉は当時のヨーロッパの封建制度や貴族制度に対する明確な反発から生まれたものだった。その背景には、啓蒙思想に基づく建国の父たちの理念や、信仰と政治の分離（政教分離）に対する強い信念があった。²¹ 本章では、米国の「平等」理念がどのように生まれ、啓蒙思想とどのように結びついて発展したのかを探る。

ジェファソンをはじめとする米創始者らは 17 世紀から 18 世紀にかけて広まった啓蒙思想の影響を強く受け、「生まれや身分にかかわらず、すべての人が自由で平等であるべきだ」と主張した。²² 啓蒙思想とは、18 世紀ヨーロッパで展開された哲学的運動であり、理性と科学を重視し、人間の平等や自由、自然権の尊重を唱えたものである。ジェファソンをはじめとする建国の父たちは、イギリスの哲学者ジョン・ロックの「自然権思想」に強い影響を受けていた。ロックは著書『統治二論』において、人間は生まれながらにして生命、自由、財産を持つ権利を有しており、政府はこれらの権利を守るために存在すると説いている。²³ ジェファソンの「すべての人は平等である」という宣言は、ロックの思想を反映し、人間が生まれながらにして持つ権利を尊重するという啓蒙思想の核心を体現していたのである。啓蒙思想の根幹には「理性によってすべての人間は平等である」という理念があった。当時のヨーロッパの封建制度や世襲制のもとでは、生まれながらにして人間の権利が制限されていた。しかし、ジェファソンら建国の父たちは、こうした身分制度を否定し、「人間の価値は生まれではなく、理性と努力によって評価されるべきだ」と考えた。この思想は、イギリスからの独立運動とも深く結びついている。植民地時代の米国では、イギリス本国人と植民地人との間に法的・経済的な格差が存在していた。ジェファソンはこの不平等を批判し、「すべての人が同じ権利を持つべきだ」という理念のもと、独立を正当化したのである。²⁴

²¹ 森本あんり．“反知性主義を育む平等の理念”．『反知性主義：アメリカが生んだ「熱病」の正体』．新潮社．2015．p.116-120．

²² 佐藤圭一．“T・ジェファソン：教会と国家間の “分離の壁” 原則再考”．国士館大学政治研究．2012．p.14

²³ Locke, John, 加藤節．“自然状態について”．完訳統治二論．岩波書店，2010．p.183

²⁴ 森本あんり．“反知性主義を育む平等の理念”．『反知性主義：アメリカが生んだ「熱病」の正体』．新潮社．2015．p.122．

加えて彼らは啓蒙思想の合理主義的アプローチを宗教に適用し、「神の存在は認めるが、自然法則や理性を通じて理解されるべきだ」とする理神論に基づいて平等の理念を説いていた。ジェファソンらは南部のヴァージニア出身であり、本国である英国と同様に英国教会を公定教会としていた。しかし、上記のような思想を持っていた彼らはキリスト教そのものを完全に否定したわけではないが、伝統的な教会制度や聖職者の権威には批判的であった。彼の信念は「理神論」に基づき、信仰の自由と個人の理性を重視していた。実際に、建国者らは「信仰や良心の自由はすべての権利の中で最も神聖なものであり、国家がこれを侵害してはならない」と主張している。²⁵ 上記の発言は彼らにとって個人の信仰の自由が「平等」と密接に関連していることを示している。その結果として、国家が宗教そのものを排除することではなく、宗教的中立を保つ宗教分離という制度実現を目指した。

このように、米国における平等の理論は米国の建国理念の中心に据えられ、啓蒙思想の「理性」「自然権」の考え方に深く影響を受けていた。米国建国者らは理神論の視点から信仰の自由と政教分離を強調し、すべての人が自由に信仰し、思想を持つ権利を守ることを平等の基盤として捉えた。

(3) アメリカン・ドリームと宗教

前節ではアメリカン・ドリームの根幹の1つである平等理念が形成されていった過程を見てきた。本節ではもう一方の根幹である「人間的成長と幸福の追求」について検討する。再度、独立宣言時にジェファソンが述べた言葉に注目すると、「創られた」という動詞から、この表現は創造主なる神の存在を前提としていると解釈できる。「神は人間を「平等」に創造した」という考えは、キリスト教史においてもかなり新しい教えである。²⁶ キリスト教は長い間、人間は皆宗教的には平等でも、人間社会には上下の秩序があることから社会的な現実においては不平等で良いと考えられてきた。だからこそ、その中でお互いに助け合い、上には上なりの品と権威が、下には下なりの献身と服従が求められていた。この考えはジェファソンの言葉と相反する内容であることは明らかである。この点から、米国でのキリスト教が土着化する中で生まれた概念であると仮定した。そこで本節では米国でキリスト教が受容され進化する過程を分析することで、上記の問いの答えを見つけたい。

前節でも触れたように建国者らは信仰高いクリスチャンではなかったことから、本文における「神」とは、従来の教会権威によって解釈された神ではなく、啓蒙思想の影響

²⁵ 佐藤圭一.” T・ジェファソン 教会と国家間の “分離の壁” 原則再考”. 国士館大学政治研究. 2012. p.8

²⁶ 森本あんり. “反知性主義を育む平等の理念”. 『反知性主義：アメリカが生んだ「熱病」の正体』. 新潮社. 2015. p.99-101

を受けた「理神論」の神であると言える。この理神論的視点では、神が人間に平等な権利を与えたという信仰と同時に、個人の責任と努力が重視される。この「平等」とは、すべての人が同じ成果を得ることを意味するのではなく、すべての人に「平等に努力の機会」が与えられるべきだ、という啓蒙思想に基づく解釈だった。²⁷ そのため、アメリカン・ドリームの根幹には、宗教的信仰と合理的な個人主義が共存しており、「神に与えられた権利としての平等」と「努力によって得られる成功」が不可分のものとして結びついているのである。

アメリカン・ドリームの宗教的基盤をさらに深く掘り下げると、米国に移住したピューリタンたちの信仰であるカルヴィニズム神学の影響が浮かび上がる。特に、カルヴィニズムの「契約神学」の考え方が、アメリカン・ドリームの形成に重要な役割を果たしている。²⁸ カルヴィニズムとは、16世紀の宗教改革者ジャン・カルヴァンによって提唱されたキリスト教神学であり、神と人間の間を「契約」という枠組みで理解する点に特徴があった。特に米国のピューリタンは、この神学を重視し、神との「契約関係」に基づく厳格な倫理観を社会の基礎として取り入れていた。初期のカルヴィニズムでは、神と人間の間は片務契約として説明されていた。片務契約とは、神が人間の行為や信仰に関係なく、一方的に恵みを与えるとするものである。しかし、ピューリタンの間では、この教義が神と人間が互いに契約遂行の義務を負う双務契約へと進化した。つまり、神の教えに従い、誠実に生きるという義務を果たした人間に対して神は人間に恵みと祝福を与える義務を果たしてくれるだろうという思想が広まったのである。この契約神学により、誠実に道徳的な行動をすることが、神からの祝福を得るための条件とされるようになった。これにより、信仰の実践が人間の行動に直接影響を与えるという倫理観が生まれたのである。さらに、この思想は次第に「正しい者が神の祝福を受けるのなら、神の祝福を受けている者は正しい者である」というように神の祝福と成功の因果関係を逆転させるような考え方へ変化していった。この因果関係の逆転は、物質的成功や富の獲得が、単なる世俗的成功ではなく、神の意志の証として解釈されるようになった。この宗教的解釈は、やがて米国社会の成功観に深く刻み込まれることとなる。

カルヴィニズム神学の契約神学と祝福の因果関係は、アメリカン・ドリームの理念に人間的成長と幸福の追求を含める土壌を作り出した。これは、以下の2つの要素によって説明できる。1点目は道徳的成長の重要性である。カルヴィニズム神学では、神の祝福を受けるためには単なる努力だけでなく、誠実な行動、正直さ、勤勉さといった人間の美德が強調され、物質的成功だけでなく、人格的成熟も重視された。²⁹ 2点目は幸福

²⁷ 森本あんり、「反知性主義を育む平等の理念」、『反知性主義：アメリカが生んだ「熱病」の正体』、新潮社、2015、p.117

²⁸ 深井智朗、「リベラリズムとしてのプロテスタンティズム」、『プロテスタンティズム：宗教改革から現代政治まで』、中央公論新社、2017、p.180-182。

²⁹ 深井智朗、「宗教改革の終わり？」、『プロテスタンティズム：宗教改革から現代政治まで』、中央公論

の追求と信仰の一致である。前節で述べたように米独立宣言で述べられた「幸福の追求」は、単なる快樂や富の追求ではなく、誰もが自由に自分の信仰を實踐できる社会の實現を目指していることは明らかであり、この点はカルヴィニズム的宗教観と深く結びついている。

このようにアメリカン・ドリームの根底には、カルヴィニズム神学に基づく宗教的信念が深く刻まれている。「神の祝福は正しい信仰と道徳的行動の結果である」という契約神学の教えは、成功を単なる物質的な豊かさだけでなく、人間的成長と幸福の追求と結びつける要因となった。このため、アメリカン・ドリームは単なる経済的成功の理想ではなく、誠実さ、努力、信仰、人格の成熟といった要素を含む、包括的な幸福追求の理念として形成されたのである。

IV. 2つの概念の共通点

(1) プロテスタンティズム

各概念の形成過程を分析した結果、プラグマティズムとアメリカン・ドリームの間には、プロテスタンティズムの宗教的精神が共通の基盤として存在するのは明らかである。どちらも、成果主義と道徳的行動の重視という価値観を共有しており、その思想の根底には、プロテスタント的な労働倫理や信仰観が根付いている。プロテスタンティズムは、特にカルヴィニズムの契約神学に強く影響を受けており、「契約関係」に基づく厳格な宗教的倫理観は、プラグマティズムの哲学とも一致する。本哲学の基本原則である「真理は有用性に基づいて判断される」という考え方は、行為の結果に基づいて評価するプロテスタントの成果主義と重なる。アメリカンドリームも同様に、努力と成果の因果関係を重視しており、それは「神から与えられた平等な機会」の延長として理解されている。

また、カルヴィニズム神学の「成功＝神の祝福」という考え方が発展して誕生した "Self-Made Man" という理念は 2 つの概念の要素が複合していることも明らかである。本概念は主に以下の 3 つの要素を持つ。

- ① 世襲の財産やコネに頼らず、自らの努力と才覚で成功を掴むべきである
- ② 神の祝福は、誠実で道徳的な行動と勤勉さによって得られる
- ③ 社会的階級は固定されず、すべての人に平等な機会があるべきである³⁰

この理念こそが、近年のアメリカンドリームの根幹を成すものであり、移民や労働者の

新社, 2017. p.91-99.

³⁰ "self-made man n." OED Online, Oxford University Press, 2021.
www.oed.com/view/Entry?175345. 閲覧日：2025/01/20

間で「貧困から立ち上がり、努力次第で成功できる」というアメリカの理想像として広まった。³¹ このように、プラグマティズムとアメリカン・ドリームは、どちらもプロテスタンティズムの倫理観に根差しており、成果主義や個人の責任を重視する共通点がある。

(2) 教育

プラグマティズムとアメリカン・ドリームはどちらも、教育の重要性を強調する点で共通しており、米国の民主主義の発展や個人の成功に不可欠な要素として捉えられてきた。前章でも触れたトマス・ジェファソンは、教育を民主主義を成立させるための基盤として位置づけ、すべての市民が平等に教育を受ける機会を持つべきであると主張していたように、両者は米国の教育制度の発展に深く影響を与え、特に 20 世紀の教育思想家ジョン・デューイの教育論に引き継がれている。デューイの教育哲学は、双方に通じる「個人の成長」と「社会的成功」を目指すものとして、今日の教育システムにも大きな影響を与えている。

ジョン・デューイは、教育の最も重要な目的は、民主主義の実現であると主張している。³² 彼にとって民主主義とは、単なる政治制度ではなく、以下の 2 つの原則に基づく「多様な人々が共に生きるための協働的な共同生活の様式」であり、教育はそのための手段として不可欠であると考えた。1 点目は自由の相互承認である。彼の生きた 19 世紀後半から 20 世紀前半にかけての米国は移民が多く様々な人々が新天地にて新たな生活を始めようと試みていた時期である。そのような社会で秩序を保つためには互いの自由を認め合い、他者の自由を侵害しない範囲で自由を行使する必要があると考えた。2 点目は協働と連帯の精神である。独立を果たし経済成長を目指す米国において、多様な人々が協力し、共通の目標に向かって努力することが、社会の健全な発展に不可欠であると考えたのだ。この民主主義の理念は、プラグマティズムの「真理は社会的実践と結果に基づいて形成されるもの」という理念とアメリカン・ドリームの「平等な機会の提供」という理念が融合した結果と言える。

彼の教育哲学は、プラグマティズムの「経験主義」に基づき、学習者が主体的に学び、社会の一員として成長することを重視した。³³ これは、アメリカン・ドリームの「すべての人が平等に機会を持ち、自分の努力で成功を掴むべき」という理念とも一致する。特に、デューイが提唱した経験主義教育は教育を単なる知識の伝達手段ではなく、学習

³¹ 森本あんり．”ドナルド・トランプの神学：プロテスタント倫理から富の福音へ”．世界．2017．p. 85．

³² 上野正道．“生き方としての民主主義—『民主主義と教育』の思想”．『ジョン・デューイ：民主主義と教育の哲学』．岩波書店．2022．p.198-205．

³³ 上野正道．“はじめに—コモン・マンの思想”．『ジョン・デューイ：民主主義と教育の哲学』．岩波書店．2022．p.18．

者が主体的に経験を積みながら学ぶプロセスとして捉えた点で、プラグマティズムの「真理は行動と結果に基づく」という基本理念と一致している。また、社会的責任と連帯意識を育むものとして捉えた点で、アメリカンドリームの本質である「平等な機会の提供」と深く結びついている。このように、プラグマティズムとアメリカンドリームは、教育を通じて個人の能力を引き出し、社会全体の発展を促すという共通のビジョンを共有している。

(3) 米国におけるマイノリティの人々との関り

プラグマティズムとアメリカン・ドリームは、米国の少数派の人々にとって、平等の理念とその実現という側面で複雑な関係を持っている。両者とも「平等な機会」を強調しつつも、歴史的にはマイノリティの排除や不平等の正当化に利用されてきた側面も否定できない。前者は「真理は経験に基づいて判断される」という立場から、個人の経験や背景の違いに着目する姿勢を持っているにも関わらず、初期のプラグマティストの多くは、白人男性中心の視点から哲学を展開しており、マイノリティの視点を十分に考慮していなかったという批判の声が多い。³⁴ 後者は「すべての人が平等に創られている」という独立宣言の理念を基盤としているが、現実にはアフリカ系アメリカ人、先住民、移民などのマイノリティが平等な機会を享受してきたわけではない。一方で、両者は 20 世紀以降、マイノリティの権利拡大に大きな影響を与えてきた。その先駆者である W・E・B・デュボイスはプラグマティズムの理論を取り入れつつも批判的視点から再構築し、アメリカン・ドリームの理念をマイノリティ解放の文脈で捉え直そうと試みてきた。

W・E・B・デュボイスは、啓蒙主義的エートスに基づき、合理主義的思想が広がりさえすれば、アフリカ系アメリカ人が直面する貧困や差別といった問題は解消され、貧困や差別のない理想的な社会が築かれると考え、教育の重要性を強調した。³⁵ この点で、アメリカン・ドリームにおける「教育を通じて誰もが成功の機会を得られる」という理念とも共鳴している。彼は「才能ある十分の一 (Talented Tenth)」という理論を展開し、黒人社会の中で特に才能のある 10%の人々が高等教育を受け、知識と道徳的指導力を持ってコミュニティ全体を引き上げるべきだと主張している。³⁶ この教育重視の姿勢は、プラグマティズムの実用主義的教育観と深く結びついている。前節で述べたデューイの教育論と同様に、デュボイスも教育を単なる知識の蓄積ではなく、「社会の変

³⁴ 寺田征也, "プラグマティズムの二つの政治思想 エマソン・デューイ・ローティの民主主義論, ソロー・鶴見のアナキズム論からウェストの預言的プラグマティズムへ," 社会学研究, 2019, P.45-71.

³⁵ 笹本雅子, "WEB デュボイスの教育思想: 黒人解放における力の自覚と自己実現," 日本の教育史学, 1980, P.90.

³⁶ 大宮有博, "コーネル・ウェストによるアフリカンアメリカンの社会思想の系譜," 名古屋学院大学論集, 2014, p. 71-85.

革を導く手段」として捉え、教育の実践的価値を強調し、教育が単なる個人的成功だけでなく、コミュニティ全体の向上に寄与すべきだと考えていた。

デュボイスが提唱した「二重意識 (Double Consciousness)」の概念は、アフリカ系アメリカ人が持つ自己認識と、社会から押し付けられる「他者としての視線」の間に生じる内面的葛藤を表している。コーネル・ウェストの分析によれば、彼はアフリカ系アメリカ人が自分自身を「自由で平等な市民」として捉えつつ、同時に人種的偏見によって「劣った存在」として見られることの間で引き裂かれる経験を表現した。³⁷ この概念はプラグマティズムの経験主義的視点とも深く関連していると言える。プラグマティズムは、個人の経験とその文脈を重視し、「真理とは行為の結果に基づいて評価される」という考え方を持っているが、二重意識はまさに個人の経験と社会的現実の間の緊張関係を表しており、個人の自己理解と社会的枠組みの影響を検討するという点で共通している。

ウェストによれば、デュボイスはプラグマティズムの思想を用いてアフリカ系アメリカ人の解放を論じる一方で、プラグマティズムの実用主義的アプローチは、「現状維持」を正当化する危険性を孕んでいると批判していた。³⁸ 「真理は有用性によって決まる」という考え方は、時として既存の社会構造の維持に寄与する可能性があるが、アフリカ系アメリカ人の解放に必要なのは、単なる「実用的解決策」ではなく、倫理的・道徳的視点に基づいた根本的な社会変革であると主張した。³⁹ この批判は、アメリカン・ドリームに対しても同様に当てはまる。デュボイスは、教育と平等な機会が理想的な社会の基礎であるとしつつも、その理想の実現には、構造的な差別の撤廃が必要であると訴えた。⁴⁰

このように、デュボイスは2つの概念をマイノリティという視点で再解釈し、教育と平等を通じた社会的正義の追求を促そうと試みていた。彼の「才能ある十分の一」理論と教育重視の姿勢は、プラグマティズムの経験主義教育と密接に関連し、「二重意識」の概念は、アメリカン・ドリームが持つ「理想」と「現実」の矛盾を象徴している。

³⁷ West Cornel、村山淳彦．“二十世紀中葉のプラグマティズム知識人たちが抱えたジレンマ”．『哲学を回避するアメリカ知識人：プラグマティズムの系譜』．未来社．2014． p.315-319.

³⁸ 大宮有博．“コーネル・ウェストによるアフリカンアメリカンの社会思想の系譜”．名古屋学院大学論集．2014． p.71-85.

³⁹ West Cornel、村山淳彦訳．“二十世紀中葉のプラグマティズム知識人たちが抱えたジレンマ”．『哲学を回避するアメリカ知識人：プラグマティズムの系譜』．未来社．2014． p.311

⁴⁰ 笹本雅子．"WEB デュボイスの教育思想：黒人解放における力の自覚と自己実現．" 日本の教育史学．1980． P. 90.

V. 結論と今後の米国経済における 2 つの概念の影響

(1) まとめ

本研究を通じて、プラグマティズムとアメリカン・ドリームが米国の資本主義精神とどのように関連し、相互に強化してきたかが明らかになった。両者は、米国の歴史的背景の中で誕生し、それぞれが資本主義社会の根幹に影響を与え続けている。

プラグマティズムは 19 世紀後半の科学的進化や南北戦争の悲劇的教訓を背景に誕生した米国独自の哲学であり、「真理はその有用性によって判断されるべき」という考え方を中心に据えている。チャールズ・サンダース・パースやウィリアム・ジェイムズによって発展したこの思想は、固定的な真理を否定し、経験と結果の実用的価値を重視する姿勢を強調した。この「成果重視」の精神は、米国の資本主義における業績評価や経済的成功への強い志向を正当化する理論的基盤となった。

一方で、アメリカン・ドリームは、すべての人が生まれながらに平等であり、努力次第で成功をつかむことができるという理念であり、米国独立宣言における「平等」の思想に根差しており、特権階級からの解放や自己実現の可能性を示唆するものとして広く受け入れられている。しかし、その理想と現実の間には歴史的に深い乖離が存在する。人種差別、経済格差といった社会的矛盾が続いてきたにもかかわらず、アメリカン・ドリームは依然として多くの米国人にとって希望の象徴として機能している。

両者の関係性を分析した結果、アメリカン・ドリームが理想として掲げる平等と成功の理念は、プラグマティズムの成果を重視する価値観と密接に関連していることが確認された。プラグマティズムの実用主義的思想が、努力と結果の因果関係を強調することで、「成功は自己努力の結果である」というアメリカン・ドリームの理念を強化してきたのである。また、プロテスタンティズムの労働倫理や禁欲的資本主義の影響も重なり、米国社会における資本主義的価値観の確立を助長してきた。

しかし、本研究は同時に、これらの理念が抱える限界と矛盾についても明らかにした。アメリカン・ドリームが平等を掲げながらも、制度的な人種差別や経済的格差の歴史的実態は、その理念の完全実現を妨げてきた。さらに、プラグマティズムの「成果重視」が過度に強調されることで、「成功できない者は努力不足」とする責任の過度な個人化や、社会構造の問題を無視する可能性が指摘される。

本研究では、プラグマティズムとアメリカン・ドリームが米国の資本主義精神を強化する一方で、その理想と現実の間に存在する緊張関係や矛盾を示した。現代米国における経済的不平等や自国優先主義の台頭といった社会的課題の理解を深め、今後の資本主義のあり方を再考するための示唆を提供するものである。

（2）今後の米国社会の予測

2024年1月よりトランプ大統領が就任し、新たな米国政府が誕生する。自国優先主義で今までの米国の強さの源泉であった寛容さは失われつつあると懸念の声が大きい。米国は今までとは異なる社会を作り上げようと試みているとは思えない。なぜなら、今日の米国社会は「ダイバーシティ」という概念から「多元主義」の社会へ回帰しようとする動きが見られるからだ。

これは、オバマ政権以降のリベラルな政策と「プラグマティズム」「アメリカン・ドリーム」との乖離が要因の一つと考える。オバマ政権下で推進されたリベラルな政策は、多様性や平等を重視する一方で、白人中間層や労働者階級の不安を高めた。⁴¹ 一方で、トランプ政権は「自国の国益優先」「保守主義」を掲げ、小さな政府を志向し、伝統的な価値観の保護を強調した。その結果、2024年の選挙では、トランプが黒人、ヒスパニック、若者層からの支持を拡大し、再び高い支持を得た。⁴² 彼の主張は、「大きな政府」による介入を嫌い、自立を重視する白人労働者層の不満を代弁するものであった。これはプラグマティズム誕生の起源であるプロテスタンティズムと共通する主張である。加えて、マイノリティに対する特別優遇措置を批判する点からはアメリカン・ドリームの持つ機会の平等という点が重なる。リベラルな政策の限界は民主党出身の候補者であるカマラ・ハリスの選挙戦略の変化からも見て取れる。彼女は大統領選前には医療保険の全面国家負担、銃規制強化、移民規制緩和などのリベラル政策を支持していたにも関わらず、選挙中にこれらの主張を軟化させ、対抗馬であるトランプの主張に近い政策を掲げた。⁴³

また、“Woke”ムーブメントに対する大衆の反応からも同様の動きが見られる。Wokeとはアメリカの歴史や価値観を否定的に再評価し、不適切とされる発言や行動を糾弾する文化である。BLMやキャンセル・カルチャーもこれに含まれ、リベラルでダイバーシティな社会を目指す人々が行なってきた。しかし、近年では多くの米国人、特にリベラル派を含む「意識高い系」ではない労働者階級が、この種の活動を過激すぎると批判的な意見が強まってきている。⁴⁴ トランプも上記の活動を真っ向から反対を表明しており、本来多数派だった人々の文化的な不安を払拭したことも今回の当選の要因の一つと言える。⁴⁵

上記のような傾向から、トランプ及び、彼を支持する人々は米国の思想や精神の基盤

⁴¹ 古森義久, “「リベラル」が再び敗れた日”, 月刊正論, 2025, p.37

⁴² 日本経済新聞, 朝刊, “米の覇権終わり多極世界に 米政治学者 フランシス・フクヤマ氏 民主主義は「後退期」(逆転の世界)”, 2025/01/01, p.4

⁴³ 古森義久, “「リベラル」が再び敗れた日”, 月刊正論, 2025, p.37

⁴⁴ 津山恵子, “もう不安でしょうがない”, AREA, 2024, p.19

⁴⁵ 森本あんり, “ドナルド・トランプの進学”, 世界, 2016, P.86.

を作り上げた多元主義で機会平等な社会の再構築を目指していると取れる。実際にトランプは移民に対する施策などからダイバーシティに対する否定は確実と言えるが、米国内のマイノリティの排除を試みているとは断言し難い。トランプ政権では一生懸命に働けば必ず報われるというプロテスタンティズムの基本的な信念を持ち続ければ「富と成功」を誰しもが獲得できるというアメリカン・ドリームの実現を試みているのではないだろうか。

VI. 参考文献

【書籍】

- Adams, James Truslow. *The Epic of America*. First edition. Taylor and Francis. 2017.
- Brandom, Robert. 加藤隆文、田中凌、朱喜哲、三木那由他訳。『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか。上巻』。勁草書房。2020.
- Brandom, Robert. 加藤隆文、田中凌、朱喜哲、三木那由他訳。『プラグマティズムはどこから来て、どこへ行くのか。下巻』。勁草書房。2020.
- Cornelis, De Waal. 大沢秀介訳。『パースの哲学について本当のことを知りたい人のために』。勁草書房。2017.
- James, William. 梶田啓三郎訳。『宗教的経験の諸相』。岩波書店。1969.
- Misak C. J. 加藤隆文訳。『プラグマティズムの歩き方: 21 世紀のためのアメリカ哲学案内。上巻』。勁草書房。2019.
- Misak, C. J. 加藤隆文訳。『プラグマティズムの歩き方: 21 世紀のためのアメリカ哲学案内。下巻』。勁草書房。2019.
- Ratner-Rosenhagen, Jennifer. 入江哲朗。訳『アメリカを作った思想: 五〇〇年の歴史』。筑摩書房。2021.
- West, Cornel. 村山淳彦訳。『哲学を回避するアメリカ知識人: プラグマティズムの系譜』。未来社。2014.
- Weber, Max. 中山元訳。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』。日経 BP 社。2010.
- 上野正道。『ジョン・デューイ: 民主主義と教育の哲学』。岩波書店。2022.
- 宇野重規。『近代の変容』。岩波書店。2014.
- 大関敏明。『アメリカのキリスト教原理主義と政治支援団体』。文芸社。2005.
- 永井孝尚。『世界のエリートが学んでいる教養書必読 100 冊を 1 冊にまとめてみた』。KADOKAWA。2023.

林研.『救済のプラグマティズム: ジェイムズの「宗教と科学」論』.春秋社. 2021.
深井智朗.『プロテスタンティズム: 宗教改革から現代政治まで』. 中央公論新社.
2017.
松本佐保.『熱狂する「神の国」 アメリカ: 大統領とキリスト教』. 文藝春秋 2016.
森本あんり.『反知性主義: アメリカが生んだ「熱病」の正体』. 新潮社. 2015.
森本あんり.『不寛容論: アメリカが生んだ「共存」の哲学』. 新潮社. 2020.

【論文】

大宮有博.「コーネル・ウエストによるアフリカンアメリカンの社会思想の系譜」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』26(1). 71-85. 2014.
大石敏広.「環境プラグマティズムにおける〈政策の合意〉の概念について ロールズの〈重なりあう合意〉を手掛かりに」『倫理学研究』47. 123. 2017.
加藤好文.「カリフォルニアの「ぶどう」を食べるのは誰か:『怒りのぶどう』とアメリカの道文化」『愛媛大学法文学部論集 人文学編』44. 1-16. 2018.
脇本. "アメリカのイブとしてのキャリー・ミーバーの探求: アメリカンドリームの幻想." 『神戸常盤短期大学紀要』29. p.1-12. 2008
笹本雅子.「WEB デュボイスの教育思想: 黒人解放における力の自覚と自己実現」『日本の教育史学』 23. 80-97. 1980.
佐藤圭一.「T・ジェファソン:教会と国家間の“分離の壁” 原則再考」『国士館大学政治研究』3. 1-28. 2012
高橋徹.「デューイの教育論的視座から見た野外教育の現代的意義—民主主義的態度の育成と総体としての成長の可能性」『野外教育研究』 24. 1-14. 2021.
寺田征也.「プラグマティズムの二つの政治思想 エマソン・デューイ・ローティの民主主義論, ソロー・鶴見のアナキズム論からウェストの預言的プラグマティズムへ」.『社会学研究』103. 45-71. 2019.
団上智也.「アメリカ独立宣言における「幸福追求」の意味—日本国憲法13条の原意主義的解釈に向けた試論—」『法政治研究』 4. 135. 2018.
山室吉孝.「プラグマティズムとピューリタニズムのエートス」『国際基督教大学学報 IA 教育研究』27. 69-85. 1985.

【雑誌記事・資料】

古森義久. "「リベラル」が再び敗れた日." 『月刊正論』. 30-39. 2025.
津山恵子. "もう不安でしょうがない." 『AREA』. 19. 2024.
森本あんり. "ドナルド・トランプの神学: プロテスタント倫理から富の福音へ." 『世界』. 81-89. 2017.

【新聞記事】

日経新聞．夕刊．「アメリカではどうしても妬みがアメリカン・ドリームに負けるんです」．1995年9月8日．1．

日経新聞．夕刊．「今日のアメリカ社会を象徴する事件を見聞きするたびに」．1994年7月29日．1．

日経新聞．朝刊．「自国優先主義強める米国、国際関与、同盟国と分担——日本の負担増大も」．1995年2月27日．7．

日経新聞．朝刊．「忍び寄る「自国優先主義」に歯止めを（社説）」．2012年7月23日．7．

日経新聞．朝刊．「米の覇権終わり多極世界に 米政治学者 フランシス・フクヤマ氏 民主主義は『後退期』」．2025年1月1日．4．

【Web サイト】

Borelli, Gabriel. "Americans are split over the state of the American dream."
Pew Research Center, 2 July 2024, <https://www.pewresearch.org/short-reads/2024/07/02/americans-are-split-over-the-state-of-the-american-dream/>, 閲覧日：2025年1月11日．

森本あんり．トランプが心酔した「自己啓発の元祖」そのあまりに単純な思想．現代ビジネス．2017年1月20日．<https://gendai.media/articles/-/50698?page=3>，閲覧日：2025年1月11日．